

授業科目名： 動物基礎医学特別演習 A (東京農工 大学)		単位数 8 単位	担当教員名： 教授・准教授・講師
			担当形態： 単独
配当年次： 1～4 年次通年	授業形態： 演習科目	開講形態： 主指導教員による研究指導	
授業のテーマ及び到達目標： 主指導教員が履修者の研究内容について指導を行い、期間内に博士論文が完成出来るように研究指導を行う。履修者各自の研究課題に対して、講義で培った理解、スキルを基に研究の理論的枠組みや仮説設定、実施、データ管理、解析、考察、先行研究との比較、研究の限定性、成果発表法、学術論文作成法について学ぶ。			
授業の概要： 獣医学の基盤を担う動物基礎医学に関して、主指導教員が期間内に博士論文が完成出来るように、研究テーマに合わせて総合的に研究指導する。			
授業計画： 動物基礎医学講座に所属する履修者の研究内容について指導を行う。 以下のとおり、博士論文の研究テーマに直結する研究分野の研究の理論的枠組みや仮説設定、実施、データ管理、解析、考察、先行研究との比較、研究の限定性、成果発表法、学術論文作成法を指導する。このことを通じて、博士論文に通じる学生の研究テーマに直接的に関与する技術、技能を養う。 <u>①研究テーマを協議し、それに応じた研究計画の立案を指導する。</u> ②研究の実際の実施方法を指導する。 ③博士論文作成に必要なデータの管理法、解析法を指導する。 ④先行研究との比較、研究の限定性を含めた考察を指導する。 ⑤学会などでの成果発表法を指導する。 ⑥学術論文の作成を指導する。 ⑦博士論文発表会での発表に対する準備を指導する。 ⑧博士論文の作成を指導する。 (柴田 秀史) 中枢神経系、大脳皮質、視床、神経トレーサー、肉眼解剖学 (渋谷 淳) 発がん、神経毒性、神経発達障害、リスク評価、動物実験モデル (渡辺 元) ホルモン、生殖器官、中枢神経系、飼料添加物、ストレス、内分泌攪乱 (小山 哲史)			

動物行動、行動生態学、社会性、血縁選択、適応度

(佐々木 一昭)

薬物動態、薬物代謝、経口吸収、HPLC、がん治療

(佐藤 俊幸)

至近要因、究極要因、包括適応度、血縁選択、社会行動

(鈴木 和彦)

病理、疾患モデル、線維化、腎臓

(永岡 謙太郎)

ホルモン調節、妊娠認識、遺伝子調節、アミノ酸代謝、細胞分化

(吉田 敏則)

脂肪肝、大腸炎、肺線維症、COPD、貧血、がん

テキスト：特になし

参考書・参考資料等：特になし

学生に対する評価：受講状況・態度や、実験手技ならびに結果の解釈における習熟度、理解度などにより総合的に評価する。